

# 発達・障害と ともに

## 生きる

わたしたちは  
こんな支援を求めています

ちょっとした遅いから生じています。  
いろいろな」との呼びが  
ですから、周囲が理解し、  
ていねいに教え、教んでいくことだ、  
まあは、苦手などといふになります。  
そして、周囲の、「いややればいいんだよ」の  
ちょっとした一言が助けになります。  
教えていくことで、学んでいく人たちだ  
ということをわかつてください。

発達障害は、生まれながらの脳機能の  
障害」とに異なりますが、  
自然にさりとて生きています。

# 発達障害者の支援の充実に向けたポイント

## 発達障害者支援ニーズ調査<sup>(\*)</sup>を通して考えられる 発達障害支援の充実に向けたステップ

( \*この調査は、発達障害が必要としている支援のニーズを把握することを目的として、2008年8月～9月、JDDネット加盟団体に関する発達障害者やその家族3000人を対象として行われました。 )

- 1 支援ニーズは、多様であるが、まず発達障害のある人が各種の支援制度を使えるようにすることが必要です。  
障害者自立支援法に位置づけることでスタートできます。
- 2 市町村において発達障害のある人を支援の対象として認識し、発達障害のある人に支援サービスを提供できる仕組みの構築が必要です。  
発達障害者のアセスメントやケアマネジメントの確立が必要です。
- 3 発達障害者が既存の障害福祉サービスを使う際には、発達障害独自の視点からの支援手法が必要になる場合もあります。  
この支援手法の普及も大切です。
- 4 発達障害者の必要とする支援には、既存の障害福祉サービスにはないタイプのものもあります。  
新たにサービスを開発することも必要です。



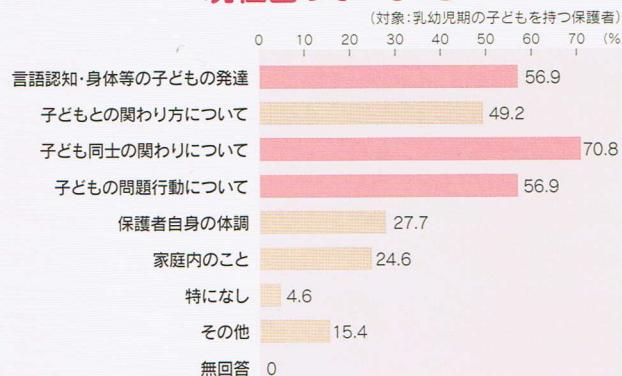
# 発達障害の子どもをもつ家族たちは

## 乳幼児期の子どもたちへの必要な支援を求めています。

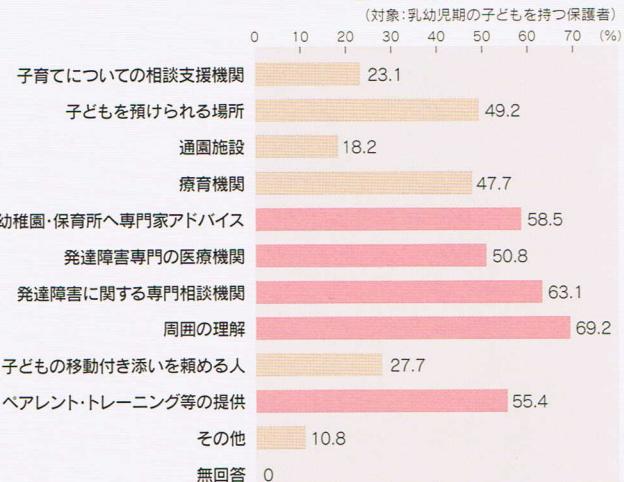
子どもどうしの関わりについて困っているのが目立ちます。

周りの理解や専門的相談を必要と考える一方で、ペアレント・トレーニングを通して家族自身が対応力を身につけたいという希望も少なくありません。

### ●現在困っていること



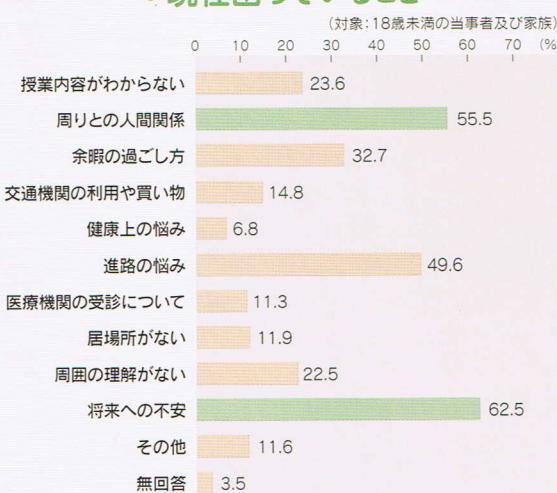
### ●ぜひほしいと思う支援



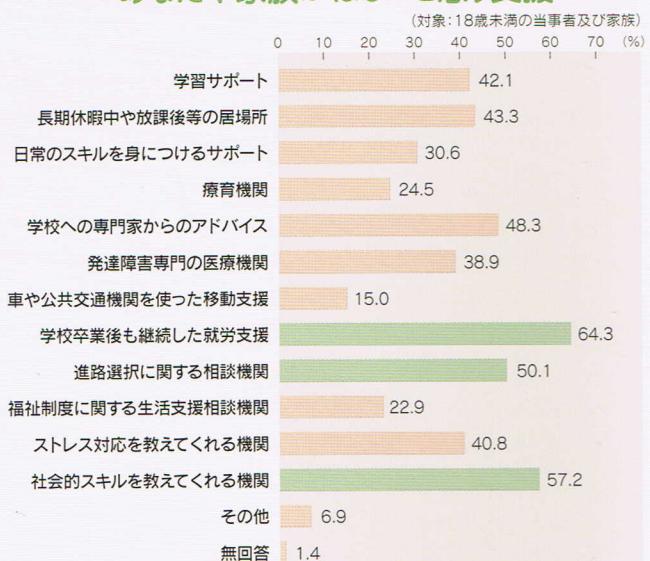
## 学齢期・思春期の子どもたちへの必要な支援を求めています。

将来への不安、進路の悩みといった、将来的な見通しについての情報や支援が必要となっています。当事者の社会的スキルや教科学習、余暇支援に対する希望も少なくありません。

### ●現在困っていること



### ●あなたや家族がほしいと思う支援



# 、日常生活の中でのさまざまな支援を求めていきます。

## 成人期の当事者と家族への必要な支援を求めていきます。

経済的な不安や健康上の心配が目立っています。  
友達や仕事、日中の居場所などを求める声もあります。

## 発達障害のある本人と家族への多様な障害者福祉サービスによる支援を求めていきます。

既存のサービスの充実と、新しく必要となるサービスの開発が必要となっています。

### ●現在利用している障害者サービス



### ●利用したいサービス



### ●充実して

- 相談できる相談支援センターの整備
- 家庭内や外出の際に利用する支援
- 年金や手当等の経済的な援助
- 医療費の助成制度の充実
- 適した公営住宅アパートの供給
- グループホームなどの住まいの確保
- 助けを受けて生活できる施設の確保
- 障害者に対する理解の促進と啓蒙
- スキル・トレーニングの機会
- ソーシャルスキル・トレーニング(SST)
- 障害児の教育・育成
- 障害者の雇用・就労のための援助
- 保健・医療機関の整備
- 放課後・長期休暇のときの活動支援
- 支援技術のある支援者の養成
- その他
- 無回答

### <既存のサービス>

さまざまな施策	障害者自立支援法のサービス 発達障害者の利用希望が多いサービス:回答者の20%以上			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●母子保健</li> <li>●精神保健</li> <li>●児童福祉</li> <li>●特別支援教育</li> <li>●職業能力開発</li> <li>●障害者雇用対策など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●短期入所</li> <li>●行動援護</li> <li>●グループホームなど</li> <li>●生活訓練</li> <li>●就労移行支援</li> <li>●就労継続支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動支援</li> <li>●地域活動支援センター</li> <li>●相談支援など</li> </ul>		

### <必要性の高

- ほしいと思う支援
- 家族支援  
(ペアレント  
ピアカウンセラー)
- 本人支援  
(ソーシャル  
アシスタント)
- 経済的支援
- その他

# 具体的な改善の提案

## 提案①

当事者がソーシャル・スキル・トレーニングを受ける、家族がペアレンツ・トレーニングを受ける、将来的な見通しについての情報を提供するというニーズに対して、本来は医療や保健に関わる専門家が適切な診断やアセスメントを提供することが期待されていますが、現在はそのための研修が十分ではありません。

私たちは、健診や発達支援を担当する医師や保健師等が、ア)客観的な検証によって適切なツールと考えられているM-CHATやPARS等の診断補助尺度を使うこと、イ)当事者団体などの活動に参加するなど、さまざまな場面や年代の当事者の実態を踏まえた上で、現場での助言に反映させるといった研修機会の推進を提案します。

## 提案②

子どもどうしの関わりに困っている、専門家による保育所・幼稚園等へのアドバイスを希望するという家族の回答が多かったことから、障害児の認定を受けてから支援をスタートさせるということではなく、子どもの発達が気になったり、子育てが難しいと感じた段階から利用できる子育て支援の枠組みの中で支援をスタートさせ、その中で、必要に応じてより専門的なサービスを受けられていく仕組みが必要とされていることが分かります。

このようなニーズに対応するために、私たちは、ア)偏ったものでない標準的な支援手法を踏まえた専門家が、保育園・幼稚園の現場の支援者をバックアップすること、イ)家族自身の対応力を高めるペアレンツ・トレーニングの機会を提供すること等の推進を提案します。

## 提案③

学校教育の場面以外でも社会的スキルのトレーニングや教科学習、余暇支援を必要としているという回答や、将来への見通しに関する情報も当事者や家族から求められています。これらのニーズに対しては、これまで既存の施策やサービスの対象とはなりにくかつたため、多くの当事者団体が独自に取り組みを行ってきました。

私たちは、ア)既存のサービスの充実という視点から、学齢期版の児童デイサービスといった支援、イ)長期的な視点からの支援の提供という点で、当事者団体の活用の推進を提案します。

## 提案④

成人期は、特に経済的な不安や健康上の不安が目立っています。さまざまな施策や障害者自立支援法の中で発達障害者の位置づけが十分に浸透していないという考えられます。

私たちは、ア)障害者自立支援法における障害者の範囲には、発達障害者も含まれていることを明確に認識すること、イ)支援の必要な発達障害者には必要な支援が届くように、さまざまな領域で取り組まれている個別支援の計画の作成を更に推進することを提案します。

## 提案⑤

私たちは、当事者団体と行政が共同して発達障害者支援の向上に力を發揮するためには、ア)各地域で情報交換を日常的に行う機会の設定、イ)当事者団体の活動に対する助成等について提案します。

## 提案⑥

調査全体を通して、社会全体の理解啓発についてのニーズの高さが目立ちました。私たちは、発達障害者啓発週間や世界自閉症啓発デーなどの機会を積極的に活用し、自治体の隅々まで発達障害に関する情報が行き届くようになるような取り組みを提案します。

## いいこと

(対象:全員)



## 新たなサービス>

実してほしいことの中から

トレーニングや  
（レッスンなど）

金・手当など）